

紅葉が終わり、湖面から吹きつける西風が木の葉を散らす季節になると、支笏湖は静かな自然に還る。一昔前までは、厳冬期ともなればほとんど訪れる人もなく、湖畔の住人は雪の中で静かに冬眠をむさぼっていたものだそうだが、今日ではスピードイナ除雪作業により、ほとんど交通が杜絶することもなくなつた。そのうえマイカーの普及と、スキー場、スケート場の建設と相まって、この期間でもかなりの観光客があり、もはや冬眠をむさぼる時代ではなくなつたが、最盛期の喧嘩にくらぶれば、まことに静かな自然の境地である。

年間一二〇万人といわれる観光客が、新緑の萌え出る季節からくり出しはじめ、七、八月の最盛期ともなれば、この狭い湖畔は人と車であふれ、歩行者は交通事故に会わぬよう、マイカー族は車の置場を探すため、うろろろしなければならぬ時代になつてしまつた。

このような現象は支笏湖に限つたことではなく、どこの観光地も人と車のラッシュで大繁昌。その結果、観光開発とか事業とかで自然の美しい装いは一枚々々よごされ、荒されていくのである。都市化と機械化が進み、人間疎外の生活環境の中で経済力だ

けが向上する今日、人々は都会から、農村から、レジャーを求め、自然を求め、海や山や湖に集まつてくる。

私達はこの人達を観光客と呼んでいるがもはや昔ながらの風光をめで、見知らぬ土地の風俗、風習を知るなどという考えは少なくなり、そこに車があるから、家の中は暑いか退屈だとか、簡単に、単純に、居住地から移動してくる群衆に変わりつつあ

時間と余裕のない人達の集団になつてしまつた。

現今、自然公園の多くが過度の利用集中による荒廃と混乱に悩み、利用者もまた不満を訴えているが、かかる集団を是認し、かつ自然公園という立場から、これらの悩みや不満をどう解消したらよいだろうか。駐車場、園地、歩道などの施設の整備と利用の場所、時期の分散化、ごく平凡では

自然公園と自動車時代



(美 笛) 支 笏 湖

渡 辺 安 次

あるが可能性のある結論である。が、この怪物的集団は、これだけの場所

るのである。そしてこの移動集団は、同一場所に長くどまることがなく、短時間に経済的に能率的に動きまわり、見てまわるのである。したがって、自然公園の利用形態も変わり、自然の中を動きまわるのが目的のドライブの集団が王座を占めるようになり、自然にあこがれ、自然を愛する人達であつても、自然をゆつくり味わい楽しむ

や施設を提供するだけで果たして満足するであろうか。とくに自動車旅行の発達した今日においては、いかにりっぱな計画を立てて施設を造つても、人と車が納得しない限り、無視されがちである。人が動かす車ではあつても、人は車のために歩くことを拒否し、車は近くで監視することを強要する。私は何よりも人が車から降り、車のこと

を忘れ、美しい森と湖を歩きながら、ゆつくり楽しみ、味わえる環境を造りたい。広く、かつ安心して駐車できる場所と、走ることも寝そべることも自由な緑の広場、これがいざるところに整備されるならば、観光客の多くは人間疎外の生活環境を忘れ、車から解放され、ふたたび自然への愛着を甦えらせてくれるのではなからうか。

今年もすでに予算の政府案が決まつたようであるが、相変わらず自然公園に関する予算は少ないようである。とかく観光とか、レジャーというものは、非生産的な行為であると考えられやすいが、現代の社会環境は、レジャーが日常生活に必要欠くべからざる必然的な行為であると、考えられる時代になつたのである。

そして、これらの観光大衆を受け入れる場所と施設は国家的な公共物であり、公共事業であり、公害対策の一環として考えなければならぬ時代なのである。

観光とか、観光地とかの観念を捨てない限り自然は荒廃し、人々は自然の雑踏の中で、ますます人間性を失なっていくであろう。人々が自然に接し、自然に還れる簡単な施設、自然愛護や公德心の呼びかけもいらない自然公園、それは、こんな平凡な計画や施設では夢の語りなのであろうか。

(支笏湖国立公園管理員)